



平成30年12月6日

北名古屋会議会議長
長瀬 悟 康 様

北名古屋市議会 市政クラブ

会長 永津 正 和



視察・研修報告書

政務活動費により視察・研修のため出張いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

参加議員名	市政クラブ（別紙のとおり）	
日程	平成30年 11月7日	
月日	視察・研修先	視察・研修概要
11・7	愛知県飛島村	災害対策本部及び北拠点避難所等について

旅費合計	交通費	宿泊費	土産代	参加費	その他
2,150 円	円	円	2,150 円	円	円

行政視察参加者名簿

市政クラブ 12名		備 考
会 長	<small>ながつ</small> 永津 <small>まさかず</small> 正和	
幹 事 長	<small>わたなべ</small> 渡邊 <small>さちこ</small> 幸子	
政調会長	<small>くまざわ</small> 熊澤 <small>ますみ</small> 真澄	
	<small>ながせ</small> 長瀬 <small>のりやす</small> 悟康	議長
	<small>さわだ</small> 沢田 <small>さとし</small> 哲	
	<small>おおの</small> 大野 <small>あつし</small> 厚	副議長
	<small>かんだ</small> 神田 <small>かおる</small> 薫	
	<small>かつらがわ</small> 桂川 <small>まさのり</small> 将典	
	<small>ふくおか</small> 福岡 <small>やすし</small> 康	
	<small>いのうえ</small> 井上 <small>かずお</small> 一男	
	<small>あさり</small> 浅利 <small>きみえ</small> 公恵	
	<small>しみず</small> 清水 <small>こうじ</small> 晃治	

行政視察報告書

11月7日に、市政クラブ所属議員12名と北名古屋市職員4名で、愛知県飛島村に行政視察を行いました。飛島村での、災害対策本部及び北拠点避難所等についての行政視察報告書。

飛島村災害対策本部

はじめに、職員から災害対策本部の概要として、設置の目的と概要の説明がありました。

飛島村役場災害対策本部は従来、役場2階第3会議室をアレンジして設置するよう計画されていましたが、災害情報の収集・分析、対策の立案・決定、さらに実行確認が一元的に短時間でできることが重要であると考え、専用の施設を準備するに至りました。

本対策本部には、リモート操作可能な水位監視カメラ、高度情報システム、NHK・民法等最大12画面を同時に映し出せるよう55インチモニター6枚を並べたディスプレイが設置されており、設定変更により、ヘリ映像や近隣自治体等とのテレビ会議、防犯カメラからの映像も将来的には取得できるシステムになっています。

なお、隣の第4会議室は、普段は通常の会議室として使用できますが、非常時にはパーティションを開放し、対策本部機能別作業室として使用します。

システム操作台には、モニター、操作パネル、ノートパソコン、ブルーレイディスクプレーヤー各1台、マイク8本などが設置されており、システムの一元的操作が可能になっています。また、HDMIやRGB、オーディオ機器の端子もあり、様々な機器を接続して映像や音声を出力することが可能です。

北側収納スペースには、災害対策本部勤務者用(職員用)の非常食(100人・7日分)が収納されています。

飛島村北拠点避難所

事業の背景

本村は、愛知県の南西部に位置し、工業系地域を除くほぼ全域が海拔ゼロメートル以下となっていることに加え、濃尾平野特有の軟弱な砂層が堆積していることから、全域で液状化の危険度がきわめて高く、災害時には家屋の倒壊、焼失、浸水など様々な被害が想定されております。

また、昭和34年の伊勢湾台風では3ヵ月という長期にわたり村内が浸水した経緯があります。

今後、起こる確率が高いと予想されています南海トラフ巨大地震では、本村沿

波から避難できる高台や建築物がほとんど無いことから、村民全員、来村者等の生命を守ることを目的として、最低限(3日間程度)の避難生活を送れる避難所等の建設を勧めております。

今回新設しました北拠点避難所は、新設された避難所としては4番目であります。周辺地区住民の避難所である以外に、弱者の方を当施設集約させて支援及び介護を行う「福祉避難所」としての役割を担っています。

施設の主な特徴(避難スペースは、2階部分から地上より4m)

建築面積：1,040.30m

延床面積：1,799.86m

敷地面積：16,661.65m

建物用途：津波避難所

避難人員：約600人

最高高さ：14.60m

- ・防災ボックス(2ヶ所)
- ・耐震型災害用貯水槽(20t)屋上に設置
- ・マンホール用トイレ(5ヶ所)
- ・車いす用スロープ
- ・非常用発電機(移動式2台、軽油2000未満)
- ・オストメイト、ベビーベット(車いす用トイレ内)

その他の避難所

建設概要

新築(避難ビル)・・・6等

- ・構造は、S造一部SRC造、地上3階建(2階梁下T: P. + 4m)
- ・1階をピロティー構造、制震装置の設置
- ・避難所には弱者用に畳敷きスペースを確保。また、備蓄倉庫を設置

建築場所

- ・津波到達予想時間を90分と想定し、既存の避難施設では対応できない範囲を「避難対応計画」で明確にし、新たに6箇所を設置計画
- ・新設については、用地買収を行わず、既存の公共用地(公園)を活用。

避難所

三福地区：名称・三福一時避難所、収容人数130人、平成26年完成

大宝地区：名称・大宝一時避難所、収容人数520人、平成27年完成

小学校跡地：名称北拠点避難所、収容人数600人、平成28年完成

新政成地区：名称・新政成一時避難所、収容人数600人、平成29年完成

服岡地区：名称・服岡一時避難所、収容人数 300 人、平成 30 年完成

梅之郷地区：計画中、収容人数 550 人

視察を終えて

飛島村は、ほぼ全域海拔ゼロメートル以下となっており、北名古屋市とは、地理的条件が違うが、伊勢湾台風では、約 3 ヶ月間の間長期にわたり浸水が継続した経緯があり、その対策も進んでいる、施設においても津波を想定した避難所で津波到達予測時間 90 分と想定し、既存の避難施設では対応できない範囲を明確にし、新たに 6 箇所を新設する計画があり、平成 30 年真伝 5 箇所完成している。

想定は違うが、避難所は参考となるとが多くあり、北名古屋市でも取り入れていきたい。(飛島村北拠点避難所)

- 1 弱者の方にも配慮した施設(車いす用スロープ・トイレ)
弱者用畳敷きスペースを確保
- 2 備蓄倉庫を設置 (7 日分 500 人)
- 3 耐震型災害用貯水槽
- 4 非常用発電機